

【設計・監理＝オリエンタルコンサルタンツグローバルJV 施工＝銭高組JV
ナイル架橋の閉合式を挙行 ウガンダ初の斜張橋、今秋開通目指す】

ナイル架橋の閉合式を挙行

ウガンダ初の斜張橋、今秋開通目指す

日本政府の円借款で計画が進められているウガンダ共和国の「ナイル架橋建設工事」で4月27日、主桁の中央閉合に伴う閉合式が現地のジンジャバウエで挙行された。

JVが担当している。式典には、モニカ・アズバ・ンテゲ公共事業・運輸大臣、亀田和明ウガンダ駐節特命全権大使、深瀬豊国際協力機構ウガンダ事務所長、米澤栄二オリエンタルコンサルタンツグローバル代表取締役社長、織田洋銭高組常務執行役員土木事業本部



監理を担当、橋梁架設から取付道路などの設計、施工

設計・監理＝オリエンタルコンサルタンツグローバルJV
施工＝銭高組JV



閉合式の様子。亀田和明大使（手前右）、モニカ・アズバ・ンテゲ大臣（手前左）

を結ぶ北部経済回廊上に位置し内陸国のウガンダにとって物資輸送の重要地点となっている。しかし、ナイル川に架かる既存橋は片側一車線で交通量の増加による渋滞に加え老朽化に対する補修が困難なことから新橋の建設が計画された。ウガンダ初の斜張橋となるナイル架橋は、橋長525メートルの3径間連続斜張橋で主塔高さ約80メートルの二面吊り構造。コンクリート主桁の斜張橋としてはアフリカ全土で最大級かつ東アフリカ最大の支長間を有する長大コンクリート斜張橋となる。今後、斜材ケーブルの張力調整や舗装等の橋面工、取付道路工事を行い今秋の開通を目指す。